

9 章 30.31 節 「それでは何を私たちは言いましょう。義を追い求めていなかった異邦人が、義を獲得しました。それは信仰からの義です。しかし、イスラエルは義の律法を追い求めていましたが、その律法に到達しませんでした」

9 章 32, 33 節 「なぜなのでしょう。それは信仰からではなく、行いによるかのようにしたからです。彼らはずまずいたのです、つまずきの石に対して。それは、『見よ、シオンにわたしは置いている、それはつまずきの石、妨げの岩である。そしてこの方に信頼する者は、恥を見ることがない』と書いてあるとおりです」

10 章 1-4 節 「兄弟たち、私自身の心が願うこと、また神への祈りは、それらは彼らに関することで、救いに至ることです。私は証します、彼らは神への情熱(熱心さ)を持っています。しかしそれは知識に基づくものではありません。彼らは神の義を知らず、自分の義を立てることを追い求めて、神の義に服さなかったからです。

それは律法の目的(ゴール、目指すもの)はキリストだからです。それは信じる者すべてを義に至らしめます」

10 章 5-8 節 「それはモーセが律法による義について、『それらを行った人間は、それらによって生きることになる』と記しています。しかし、信仰による義はこのように言います、『あなたの心の中において言うてはならない、『誰が天に上るのか』などと、それはキリストを引き降ろすことです。また『誰が深みに下るのか』などと、それはキリストを死者の中から引き上げることです。しかし、彼(モーセ)は何と言ってるか、『みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある』、これは私たちが宣べ伝えている信仰のことばです」

10 章 9-11 節 「すなわち、もしあなたの口においてイエスを主と告白し、あなたの心において神はこの方を死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われることとなります。それは、心で信じることは義とされること、口で告白することは救われることだからです。それは聖書が、『すべてこの方に信頼する者は、恥を見ることがない』と言っているからです」

10 章 12, 13 節 「それは、ユダヤ人とギリシャ人の間に分け隔て(分離)はないからです。というのも、同じ主がすべての人にとっての主であり、この方に呼びかけるすべての人に対して豊かであられるからです。それは、すべて主の御名を呼び求める者は、救われることになるからです」

<引用聖句>

(ローマ 3:5) 「では、もし私たちの不義が神の義を明らかにするのなら、何を私たちは言いましょうか」 (3:22-24) 「すなわち、神の義がイエス・キリストの真実によって(を

通して、媒介として)、すべての信じる人に与えられたのです。そこには分離(区別)はないからです。それはすべての人が罪を犯して、神の栄光を受けるに値しなくなっているからです。それで、神の恵みによって価なしに(無償で)義と認められることになりました、それはキリスト・イエスによる贖いを通してのものです」

(イザヤ 8:13,14) インマヌエル預言直後 「万軍の主(ヤハウェ)、主を聖なる者とせよ…そうすれば主が聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にとっては、妨げの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には罌となり、落とし穴となる」。

(イザヤ 28:16) 「見よ。わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊い要石。これに信頼する者は慌てふためくことがない」

(ローマ 1:17) 「福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませる」

(マルコ 2:27) イエスは言われた、「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません」

(マタイ 6:33) イエスは、「神の国と神の義を捜しなさい(求めなさい)」と言われた。それは具体的には、「空の鳥を見なさい」「天の父は養ってくださいます」(同 6:26)ということ覚えることであり、「野の花がどうして育つのか、よく考えなさい」「神はこのように装ってくださる」(同 6:28,30)という霊的な現実を発見することに他ならない。

(ルカ 18:9) 「自分は正しいと確信していて、ほかの見下している人たち」

(マタイ 5:17) 「律法や預言者を…廃棄するためではなく、成就するために来た」

(レビ 18:5) 「あなたがたは、わたしの掟とわたしの定めを守りなさい。
人がそれらを行うなら、それらによって生きる」

(申命記 30:11-14) 「まことに、私が今日あなたに命じるこの命令は、あなたにとって難しすぎるものではなく、遠くかけ離れたものでもない。これは天にあるわけではないので、『だれが私たちのために天に上り、それを取って来て、私たちが行えるように聞かせてくれるのか』と言わなくてよい。また、これは海のかなたにあるわけではないので、『だれが私たちのために海のかなたに渡り、それを取って来て、私たちが行えるように聞かせてくれるのか』と言わなくてもよい。みことばは、あなたが行うように、ごく身近にあり、あなたの口にあり、あなたの心にある」

(ヨエル 2:32) 「主(ヤハウェ)の大いなる恐るべき日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。しかし、主(ヤハウェ)の御名を呼び求める者はみな救われる…エルサレムには逃れの者がいるからだ。生き残った者たちのうちに、主(ヤハウェ)が呼び出す者がいる」

(ヨエル 2:26,27) 「わたしの民は永遠に恥を見ることがない」